ルームレポート＆インタビュー

城東区鴫野小学校生涯学習ルーム「チンドン楽団」へ行ってきました！

今回ご紹介するのは、城東区鴫野小学校の生涯学習ルーム「チンドン楽団」です。

鴫野小学校は、JR線とOsaka Metroの鴫野駅からほど近い、住宅や公園に囲まれたエリアにあります。

学校の正門の向かいにも大規模なマンションが立ち並んでいて、近年、児童数は増えています。児童数は563人（令和7年度）です。

「チンドン楽団」は、月3回、土曜日の12時から、鴫野小学校の「いきいき第二教室」で活動しています。

令和3年夏頃に生涯学習ルームとして「チンドン楽団」が結成され、現在メンバーは21人（取材時点）です。

ルームの様子

この日は、12時になるとメンバーが少しずつ集まってきて、自分のパートを自主的に練習します。2週間後に近隣のすみれ小学校で行われる「すみれフェスティバル」が、また、3週間後には地元の「しぎの夏まつり」が控えていて、今が一年で一番忙しい時期です。



自分の楽器で、それぞれ練習します

チンドン楽団にはどのような楽器があるのでしょうか？まず、チンドン屋の顔でもある鳴り物（鉦<かね>・太鼓）のほか、ウッドベース、トランペット、トロンボーン、ソプラノサックス、アルトサックス、バリトンサックス、ユーフォニアム、クラリネット、そしてドラムスと、多種多様な楽器で構成されています。



メンバーが集まってきました

そして、メンバーがおおむね揃ったら、いよいよ全体での合奏の時間がはじまります。この日演奏したのは、ジャズの定番「Sing, Sing, Sing」、となりのトトロより「さんぽ」、カーペンターズの「Top of the World」、坂本九の「上を向いて歩こう」でした。多くの人が耳にしたことのある曲ばかりです。本番さながらの、迫力満点の演奏に圧倒されました。

インタビュー

チンドン楽団の代表で生涯学習推進員の渡邊勲さんに、楽団についてのお話や、鴫野に対する想いを聞かせていただきました。



生涯学習推進員の渡邊勲さん

ー今年3月に出演された城東区生涯学習ルームフェスティバルのオープニングのパフォーマンスでは、会場が一気にお祭りムードになりましたね。

渡邊さん：区民ホールのステージにみんなで立たせてもらうなんて夢のようでした。オープニングということで、ドラムセットも置かせてもらって演奏することができました。

ー生涯学習ルーム活動として「チンドン楽団」を結成された経緯を教えてください。

渡邊さん：楽団の立ち上げは、講師、高校の同級生、私の3人ではじめました。私は小学校の時にちょっとだけトランペットをやっていて、ここ最近、ミュージカルやジャズに目覚めて、そしたら、だんだん自分がやれるようになれないか？と思うようになり、そのスタートラインがチンドン屋でした。私は鴫野で育ったのですが、こうやって音を鳴らして街を歩くことが楽しいし、こどもたちも寄ってきます。そういう風景をここ鴫野の地で作ってあげたいという気持ちがありました。楽器は大きな音が出るので、近隣の方に音で迷惑が掛からないか、それだけが心配でした。近隣住民に理解してもらえるように、「生涯学習ルームでこういうことをやりますよ」と町会で事前に説明したりしました。そのおかげか、今のところ心配していたようなことは一切なかったです。

ー3人で立ち上げて、今は21人と、メンバーは増えていってますね。

渡邊さん：ほぼ自然にメンバーは増えていきました。下は小学校4年生から、上は70代までいます。小学生の子は、親と参加しているんですが、親がサックスを吹いているので私もサックスを吹いてみたいというのがきっかけでした。ほかには、「クラリネット吹けるから来ました」、「小学校の鼓笛隊に入っている娘も連れて来ました」など、さまざまなきっかけで集まってきました。高校生の子で鴫野小学校の卒業生がいるんですが、中学校の吹奏楽部で出会った友達を連れてきましたし、この部屋の隣の“いきいき”の子が興味を持って参加したというのもあります。今日も、”いきいき”の子たちが演奏を聴きに来てくれていますよ。



華やかな衣装で盛り上げます

ー渡邊さんの、楽団に対する想いを教えてください。

渡邊さん：もう私も70歳が近いので、とにかく楽しめたらという気持ちでやっています。楽団は地域コミュニティの一つの場だと思っています。楽器が上手じゃなくても、どなたでもウェルカムです。こどもと一緒にこういう活動をできることが一番大きいんじゃないでしょうか。まちの活性化を図るためにはこどもが重要なんです。こどもたちに夢を与えて地域を活性化させていく、そんな活動をずっと続けていきたいです。

ー最後に、これからの楽団のことを教えてください。

渡邊さん：7月の「すみれフェスティバル」、8月の「しぎの夏まつり」、11月の「鴫野のまちのフリーマーケット」、3月には「城東区生涯学習ルームフェスティバル」と、1年に4つ、地域の大きなイベントでパフォーマンスをします。メンバーは仕事を持ってやっている人がほとんどだから、これ以上イベントを増やすとスケジュールが大変になるのですが、みんなで楽しめる場をもう少し増やしていけたら、もっとおもしろい場になるんじゃないかな。今は楽団ですが、ゆくゆくはチンドン楽団から“チンドンオーケストラ”へ、などと思っています。



「すみれフェスティバル」出演時のチンドン楽団

編集後記

華やかな衣装を身にまとい、サングラスやメイクなどで素顔がわからない、それでいて楽しくパフォーマンスしている「チンドン楽団」。その正体は、鴫野の地をこよなく愛し、地域に笑顔を届けてくれる、熱い想いを持った人たちの集まりでした。

優しさ、懐かしさ、力強さを感じられるチンドン楽団のパフォーマンス、ぜひ生で体感してみてください！